## 熊澤蕃山先生没後330年記念

郷土ゆかりの英傑

# 熊澤蕃山



熊澤蕃山物語 熊澤蕃山四方山話

熊澤蕃山顕彰保存会

## ーはじめにー

令和2年は、熊澤蕃山先生の没後330年にあたります。

蕃山先生は、名君池田光政公のもとで偉大な事績を残されました。

天下にその名が知られる中で、蕃山先生の学問・思想は没後も後世の 多くの識者に影響を与え続け、やがて明治維新の大きな原動力になった ともいわれています。

しげやま

三百有余年前、当地区にある蕃山という地名は蕃山先生が付けられた もので、山深く閑静で峠を越えれば海というこの地を故郷のように愛し、 両親、縁者の墓を設け、終焉の地に考えられていたことも窺えます。

我々の先祖が偉大な蕃山先生の近隣に居住し、その高潔な人格、英知、 徳行に魅了され、それを享受しながら生きていた貴重なご縁を想うとき、 郷土ゆかりの英傑として市民はもとより多くの方々に先生を理解して いただくことを切に願っております。

節目の年にあたり、これまでの顕彰・啓発活動の資料からこの小冊子 を編纂いたしました。 稚拙ではありますが、蕃山先生ご理解の一助と なれば幸いに存じます。

また、当地区からさらに顕彰の輪が広がり、次代を担う「ひとづくり」 につながれば大変ありがたいことだと思います。

令和 2年 9月

熊澤蕃山顕彰保存会 会長 立 花 尚

表紙: 熊澤蕃山 騎馬武者絵; 斎藤一興 画 (正楽寺所蔵)

題字; 立花 尚(熊澤蕃山顕彰保存会会長)

#### 熊澤蕃山先生没後330年記念 「郷土ゆかりの英傑―熊澤蕃山―」出版記念 お祝いの言葉

#### 発刊に寄せて

本年は、特別史跡旧閑谷学校創学 350 年・熊沢蕃山先生没後 330 年に当たります。

時あたかも、旧備前市・日生町・吉永町の一市二町が合併し、新備前市市政施行 15 周年を迎えました。新庁舎落成式を市民の皆さんと喜びを分かち合い、決意を 新たに、まちづくりの前進を期す時であります。備前市では、平成2年、熊沢蕃山 没後 300 年を記念し、盛大な各種記念事業を、官民挙げた顕彰活動を行っていま す。また多くの著書や評伝もありますが、その流れは、旧閑谷学校を教育遺産群と して世界遺産登録推進活動となり脈々と受け継がれてまいりました。平成27年4 月教育遺産群として日本遺産認定を契機に地元の活動も一気に高まりを見せておら れます。

この度発刊の『郷土ゆかりの英傑―熊澤蕃山―』は、永年蕃山先生を敬愛し、遺徳を偲びその業績を追跡調査し、関係他地区住民同志との交流を深めつつ顕彰活動を続けてこられた中で生まれた有意義なものであります。顕彰保存会のご努力に敬意と感謝を申し上げます。

京で生まれ水戸で育ち岡山で藩政を支え、蕃山(備前市)を離れ、古河の地に没するまでの一生を、四方山話として纏められた素晴らしいものです。

近江聖人中江藤樹の考えを広く世に広め、山田方谷をして閑谷学校再興に走らせた熊沢蕃山を、郷土の誇りとして顕彰することは、今を生きる私たちの責務と考えます。

本誌の発刊により、多くの人々に読まれ、熊沢蕃山研究やまちづくりのバイブルとして、顕彰活動に活かされると共に、蕃山の教えが来年から始まる備前市第3次総合計画策定の中にも反映され、また蕃山記念館建設の醸成の一助にとなってくれることと期待しています。

令和 2年 9月

備前市長 田原降雄

#### 熊澤蕃山先生没後 330 年記念 郷土ゆかりの英傑「熊澤蕃山」出版記念

#### 教育長メッセージ

今年は、熊澤蕃山先生が亡くなられて330年、また1670年創学の閑谷学校は、 思想的に蕃山先生から影響を受けた初代岡山藩主池田光政が創建を命じたもので、 今年が創学350年の節目の年にあたります。

この節目となる年に、蕃山先生の生涯、生き様を描いた記念誌を発行されますことに対し、熊澤蕃山顕彰保存会及び関係者の皆様方のご苦労に深く感謝の意を表します。

本誌では、蕃山先生の生き方、考え方を分かりやすく解説していただいており、 読み進めますと、「知行合一」、「致良知」、「天人合一」の考え方など、現代に 生きる私たちへの貴重なメッセージとして深く心に響いてまいります。

蕃山先生の生き方を学ぶことは、郷土の歴史に関心をもち、自ら調べていこうとする態度を育成したり、郷土を誇りに思い、愛する心を醸成したりすることにつながります。この学びを備前市の将来を担う人づくりに繋げていくことは「教育のまち備前」をテーマに掲げ、教育の振興に取り組んでいる備前市にとって重要なことと考えます。

顕彰保存会におかれましては、今後とも蕃山先生の遺徳を顕彰され、関係者が一つとなって未来の子供たちへ「知の宝」を継承していただくことを強く熱望いたします。

令和 2年 9月

備前市教育委員会 教育長 奥 田 泰 彦

# 熊澤蕃山



秋山清水;画

## 幕末から維新を生き抜いた 勝 海舟 をして 「 儒服を着けた英雄 」と 言わしめた

## 蕃山先生の生涯

# 熊澤蕃山物語 1~6話

# 京で生まれ 水戸で育ち 近江で学び 岡山で功を為し 古河に没する

- I 熊澤蕃山生誕から岡山藩への一度目の出仕 池田光政への士官
- 2 近江桐原での苦学 生涯唯一の師「中江藤樹」との出会い
- 3 岡山藩への再仕官と業績 災害時の飢民救済・治山治水事業・教育の振興
- 4 備前市蕃山への隠棲
- 5 京からの流浪の旅
- 6 終焉の地 古河での蕃山

## 熊澤蕃山生誕から岡山藩への一度目の出仕 池田光政への士官

戦国時代が終わり、家康によって天下が統一された江戸初期の元和5年(1619)地方武士、野尻一利の長男として京都稲荷に生まれる。(幼名;佐七郎) その後、8歳にて水戸の母方の祖父熊澤守久の養子となる。

16歳の時、縁があって京都所司代 板倉重宗、丹波 みねやまはかしゅきょうごくたかみち 峰山藩主京極高通の推薦により備前岡山藩主 池田 光政に士官する。

光政の児小姓役として電愛を受け、武道に励む。 寛永 14 年 (1637) 19 歳の時、光政の参勤に従い江戸に赴く。



池田光政 肖像画(林原美術館 所蔵)



熊澤蕃山 騎馬武者絵 (表紙と同じ)

しかし、間もなく島原の乱は平定されてしまい、 蕃山の思いとは別に主君の命に反したことだけが 残ったのである。

このことがもとで 居場所のなくなった蕃山は、岡山藩を致仕(退任) せざるを得なくなり、父方の祖母の出所である近江桐原村(現 滋賀県近江八幡市)の伊庭家を頼り移住するのであった。

#### あうみきのはら 近江桐原での苦学 生涯唯一の師「中江藤樹」との出会い

父親が浪々の身であり、家族も多く、蕃山一家の近江での生活は大変苦しかった。

それでも学問への意欲は強く、中国の古典等を読み漁るが、やがて行き詰まってしまい、蕃山は 自己の学びを深めるために 京へ出向き、良き師を探し求めていた。そんな時、ある宿で同宿した人から「正直馬子の話 (四方山話 10)」を聞き、中江藤樹を知る。



近江聖人「中江藤樹」(中江藤樹記念館所蔵)

寛永十八年、藤樹三十四歳、蕃山二十三歳 でした。 「先生、ぜひ私を弟子にしてください」 真剣に頼む蕃山に、藤樹は、「私はあなたの 真剣に頼む蕃山に、藤樹は、「私はあなたの 本らえないので、藤樹の家の門前に茣蓙を敷 いて座りました。刀の大小をわきにおき手を 膝に端然と正座して、師と思い定めた人の返 事を待ちました。旧暦の十一月の、雪もちら つく寒さの中を、二日二晩、門の 廂 の下に 過ごしたのです。

門前で座して入門を請う蕃山 新教育者連盟発行 子供のための伝記シリーズ「中江藤樹」より 著者; 千葉ひろ子 イラスト; えんどうえみこ

早速 近江国が川村 (現在の滋賀県高島郡安曇川町上小川) を訪ね、やっと入門を許されて、藤樹の指導の下、一心に勉学に勤しむ。

しかしその勉学生活も、父親が士官を求めて家を空けたので、蕃山は一家を養わなければならず、ハヵ月ほどで終わり、長くは続かなかった。

天災や飢饉が度々あり、蕃山一家の生活は大変苦しく、ぬかや百合子雑炊(くず米に雑草をいれたもの)をすすって飢えをしのぎ、厳冬の寒さには紙子を重ね着するなど困窮を極めた。そんな生活の中でも、師藤樹との書簡でのやり取りなどにより学問の火は消えず、陽明学等を究めていったのである。

また 近江桐原は、農民の自治組織である惣村制が発展した地域であり、人々の強い つながりの中で行政・経済・宗教行事、また、水利・山谷・湖水の用益等を組織で共 有、運営していた。

蕃山の後年の治山治水に関する基礎的な知識や経世家・思想家としての資質が、ここで培われていったと思われる。

## 岡山藩への再士官と業績

正保2年(1645)縁があり、再び京極高通等の世話で、蕃山は岡山藩池田光政の元へ再士官をすることになる。

岡山藩へ再士官した蕃山は、近江で学んだ学問等がたちまち藩内でも評判となり、学識者としてその手腕を振るった。学問による仁政を目指していた光政の信望も厚く、蕃山の学問・思想に感化・傾注した光政は、300 石取りのお側後(近望)から3 年で一挙に3000 石の鉄砲組番頭(家老に次ぐ重要な地位)に就かせた。

これにより蕃山は藩経世の中心的な存在となり、数々の業績を上げることになった。 光政はこの頃の藩政のほとんどを蕃山に任せたといっても過言でない。

# 災害時の飢民救済



将軍家光の姉 千 姫

蕃山の力量はいたるところで発揮された。

議念3年(1654)の未曽有の炎徳が岡山藩を襲ったその時、領民を救済するために藩庫を開いて貯蔵米を空にし、救援金の調達で、光政夫人の母、 デ樹院 芋姫の手づるを頼み、幕府から金4万両その他を借り受け、それに充てる等、困窮した藩と領民のために全力を尽くした。それ以後ほとんど犠牲者を出さなかったといわれている。

## 治山・治水事業

「治山・治水は国の本」「天人合一」等自然環境保護を前提に、むやみな森林伐採や新田開発の愚を説き、自ら植林作業や土木工事の現場に赴き、土地の古老や識者から意見を聴き、川筋の住民によく状況を正し、用意周到に事業に臨んだ。手がけた堤防や溜め池等はいずれも堅固な造成で知られるが、それは綿密な計画の元、人夫を大切にしながら、時間をかけ、万全を期して行っているがゆえである。

でいっけんがわ 首間川の荒手の構想は蕃山の計画の下、津田永忠の手によるものである。

伊里地区においても 大谷川の移設による田畑の増設など 多くの土木事業を行っており、藩内はもとより、豊後大労 岡藩や終焉の地 古河等 全国的にも多くの実績を残している。

## 教育の振興

岡山が教育県と呼ばれて久しいが、その源は当時全国に先駆けた池田光政・熊澤蕃山 の教育振興策によるものだといわれている。

## 岡山藩校を全国に先駆けて

光政は、蕃山の陽明学の影響で、蕃山の師である中江藤樹の門弟や子息を岡山に呼び寄せ、花曽に集住させた。そして蕃山を中心にして藩士の教育をさせた。その陽明学者の仲間が集ったのが花園会であり、花曽教場である。これがやがて全国に先駆けた藩校へと結びついていくことになる。

## 庶民教育の場「閑谷学校」の設立

この他に、諫箱、八塔寺地区に農兵制の導入等数々の業績を残している。

これらの多大な事績により、池田光政・熊澤蕃山の名は 日本国中に知られるところとなり、多くの信奉者ができた。



# 備前市蕃山への隠棲

めいれき

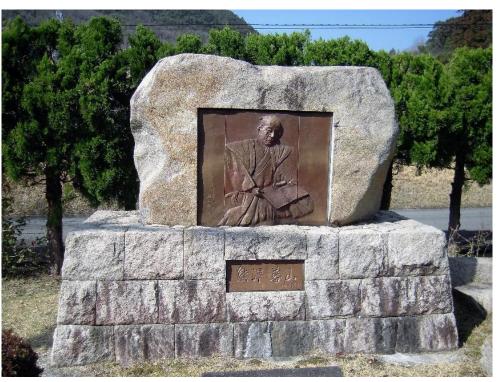
明暦3年、蕃山は光政に隠居を願った。表向きは、狩りをした時の負傷であったが、 江戸幕府が蕃山の陽明学(心学)を嫌忌し、蕃山を擁護する藩主光政に対しても同様 であった。また、藩内でも蕃山と家老達との不和対立が激しく、光政はお家騒動に発展 するのを恐れ、身を引く覚悟を決めた蕃山を惜しみながら隠居を認めたといわれている。

蕃山は 知行地であった和気郡伊里の荘寺口村(現 備前市蕃山)へ居を移し、姓名も とげやまりょうかい 蕃山了介と改めている。「ばんざん」は通称である。(詳細は別紙四方山話に記載) ここでも蕃山は 教育の振興、河川改修等土木事業を領民のために行っている。約四 年間の在住後、京へ上り、御所にほど近い上御霊に住まいを定めている。



モデルとなった蕃山肖像画 (中江藤樹記念館所蔵)

#### 正楽寺の西に整備されている蕃山陶板像



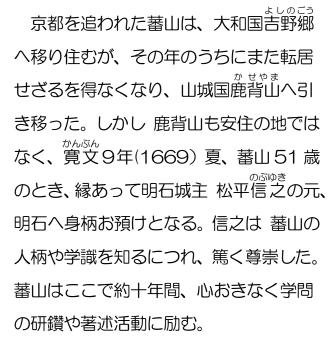
蕃山没後300年記念事業(平成2年)により建立 (浦上善次作)

## 京からの流浪の旅へ

岡山を離れた蕃山は、京都上御霊に身を寄せ、 高僧や公卿衆と親交を深め、雅楽や源氏物語の注 釈・研究を始め、その優れた才覚や仁徳に、周囲 が皆感化されていったといわれている。

公卿衆との親交が深まる中、当時の京都所司代 まきの 5かいげ かんぶん 牧野親成は寛文7年(1667) 蕃山と朝廷との関

係が親密になるのを恐れ、京都追放を命じることになる。



延宝7年(1679)松平信之が明石より大和都山へ転封したのに伴い蕃山も郡山へ移住する。



弦楽器を爪弾く蕃山の肖像画 (古河市;鮭延寺所蔵)

#### 明石での熊沢蕃山

松平信之公に お預けの身になった蕃山は、 約十年にわたって明石で過ごすことになる。 ほとんどを太山寺で幽閉の身ではあったが、 ここでも 大切な 儒臣として 信之公から庇護 されていた。 蕃山は執筆活動に専念し、ここ で代表作である「集義和書」と「集義外書」を 著述したのだった。

信之公は 地元で名君と慕われ、水路や掘割を 作り上げ、新田の開発等に尽力し、農業振興に 寄与したことが知られている。

蕃山の功績は、文献には遺されていないが、成熟期の蕃山が 十年にわたって居住したところであり、おそらく信之公の知恵袋として寄与していたのではないかと想像される。

貞享4年(1687) 幕命により蕃山は、松平信之の嫡男、下総古河藩主松平忠之のお預けの身となり、古河(現茨城県古河市)へと移る。

## 終焉の地古河(茨城県古河市)での蕃山

まつりごと しょしおうき

浪人の身をもって天下国家の政事を論ずる「処士横議」(一般人の政論禁止)の罪により、古河においてそのまま禁錮の処分を受け諸国行脚の自由を奪われた。

しかし、蕃山は禁錮の身ながら藩主の配慮等により、領内各地に出向くなど、かなり の自由が許されていたようである。

そして、藩主以下家老藩士たちが蕃山を頼りにし、行政上でも指導を受け、蕃山溜、 干拓などの治水事業を建策し実践指導も行っている。

これらの事業により古河藩は 一挙に約四万石の増産となったといわれている。

また、執筆活動も少しも衰えず、「孝経小解」(親や祖先への孝を説いた有名な こうきょう 「孝経」の注釈)等様々な著書を著している。

古河在住4年後の 元禄4年(1691) 8月、73歳にて永眠、松平忠之により儒礼をもって鮭延寺に葬られた。

藩主松平忠之は、 聖人的風格を持つ蕃山の人間的魅力に傾注しており、その逝去に 際し、それを惜しみ、人目もはばからず慟哭したと伝えられている。



蕃山が眠る鮭延寺 (茨城県古河市)



蕃山夫妻の墓所

墓碑には「熊沢息游軒伯継墓」と刻まれている。 (左側が蕃山、右脇は妻いちの墓碑) 茨城県指定文化財(史跡)

## 反骨の天才経世家

経世済民 民本主義 「民こそ国のもとなり」

## 日本初のエコロジスト

治山治水にみる「天人合一」自然破壊の戒め

## 哲人教育者

教育による人づくり・国づくり

全国に先駆けた藩校設置、庶民のための郷学 旧閑谷学校創立を起想

# 熊澤蕃山四方山話 1~12話

- I 熊澤蕃山の人物像 (江戸時代の蕃山に対する評価)
- 2 蕃山の学問・思想
- 3 天人合一
- 4 当時の官学者と蕃山・藤樹の思想の相違点
- 5 代表的書籍
- 6 蕃山の知行地と農兵制度
- 7 豊後岡藩(大分県竹田市)での蕃山の事績
- 8 蕃山の故郷は備前岡山蕃山の地
- 9 蕃山の呼名由来
- 10 蕃山と藤樹の出会いのきっかけになった逸話
- 11 山田方谷
- 12 熊澤蕃山の遺訓

#### 熊澤蕃山の人物像(江戸時代の蕃山に対する評価)

#### 生きた時代背景 |



蕃山が生きたのは徳川二代将軍秀忠(元和年間)から五代将軍綱吉(元禄初年)(1619~1691)の時代であり、 徳川幕府政権の基礎が固まりつつあった時期である。

#### 天下の名士として名を馳せる 学者番付 東の大関 「学者角力勝負附評判」の番付

蕃山が当時江戸時代の代表経世家であることは、荻生徂徠を始め、学者・思想家・文人たちの遺した評を見ても明らかであり、三十を過ぎたばかりで、すでに経世家として天下の名士だったのである。 その器量の大きさと識見の高さ、優れた政治手腕は、当時幕閣の中心にあって、三代将軍家光・四代家綱の補佐で「伊豆知恵」と言われた松平信綱、また、五代綱吉を補佐して「天和の治」を実現した堀田正俊が、幕府に登用しようとしたことでも明白である。 徳川御三家の一人、紀伊頼宜が破格の待遇をもって蕃山に接見したこと。そして同時代の名僧鈴木正三が「未だ四十足らずして一国の師と為る事、大いなる徳を持ち、来たる人也。 定めて好き処有る可し」と述べている。後に、六・七代将軍を補佐し「正徳の治」を実現させたまず井白石が蕃山の経世策の半ばを継承実現させたこと。また、後世にも影響を与え続け、江戸後期には藤田幽谷・横井小楠・大塩平八郎・山田方谷等によって遺策が実現を見たので

#### 幕府の嫌忌をかう

当時、蕃山の影響は 幕府の要人・諸大名・旗本の士等武家一般に及ぶと共に、 京都の公卿 衆にも及んだことから 幕府の嫌うところとなり、在京七年で京都追放処分を受け、それ以後、明石・郡山・古河と転住を余儀なくされ、 常に幕府の監視下に置かれる。 特に、時の幕藩政 批判ともいえる上書(後の大学或問)により古河に幽閉され、 元禄四年古河にて客死する。

ある。幕末の英傑「勝海・舟も「氷川清話」の中で『儒服を着けた英雄』と蕃山を評価している。

## 才 徳 兼 備 一 人々を魅了・感化するその人柄 一

その間、平易な著書(集義和書・集義外書等に代表される)にて、 門人を始め一般知識人を 啓蒙するとともに、清貧な生活、高潔な人格、文学と音楽愛好による典雅な生活ぶりなどにより、 周囲の人々を魅了感化し続けたのである。

古河が終焉の地になったが、 禁錮幽閉の身の蕃山を預かった 古河藩主松平忠之は、その 逝去にあたり、 それを惜しみ、 慟哭したと伝えられている。

蕃山の高士としての風格を端的に示すのは、江戸時代の名士には稀な例であるが、確かな 肖像画を残していないことで、 後の西郷南洲と共通するところがある。

## 蕃山の学問・思想

近江桐原で中江藤樹から学んだ「知行谷一」「致 覧 知」等の陽明需學また、「孝経」等を基盤に、「民本主義」「経世済民」「実践主義」等、蕃山は独自の「蕃山学」ともいえる学問・思想体系を打ち立てていった。

岡山藩で、池田光政の知遇を受け、思う存分その才覚・手腕を振るった蕃山であったが、当時の江戸幕府の官学は、同じ儒学であっても、幕藩封建体制を保っていくためには朱子学でなければならなかった。そのため、幕府にとっては蕃山の陽明的心学は、当時反幕府思想に思われていた。しかしその蕃山学は、陽明学に固執したものではなく、陽明と朱子の優れた所を取り入れ、それに自分の思いを加味した、正に社会倫理にかなった仁政を施すための正論ともいえるものだったのである。それ故、幕藩体制を堅持したい幕府にとっては、誠に痛い所を付かれた部分も多かったのではないかと思われる。

早世で叶わなかったが、岡山での事績を知った三代将軍家党も蕃山への接見を試み、またその後に、幕閣の内部でも、岡山藩での業績等蕃山を熟知していた老中堀笛藍俊は、蕃山の英知・才覚を幕政に反映させるため幕府に出仕を請うた程であったが、蕃山はそれを固辞し、当時の体制批判ともいえる自己の主義・主張を変えることはなかった。それが故に常に幕府の監視下に置かれ、ついには禁錮幽閉の身で後半生を過ごすことになり、反骨の儒学者と言われた蕃山の思想は、当時実を結ばずして埋もれてしまったかのように思われた。

そのような時代背景の中でも心ある経世家・識者・学者には、蕃山の思想の信奉者、著書(集義和書・集義外書・大学或問等)の愛読者は多く存在し、そして、その蕃山の思いは、没後百数十年の後、多くの識者、学者の手を経て、幕末から明治維新の原動力になった多くの志士達の思想の源になって再び返り咲き、日本をゆり動かしていったのである。勝海舟をして『儒服を着けた英雄』と言わしめ、佐久間象山、薩摩の西郷、大久保、島津斉彬、長州の高杉や伊藤などを教えた吉田松陰等が蕃山の信奉者だったと言われている。維新の功業には蕃山の思想的影響が少なからず作用しているといってもおかしくないのである。

てんじんごういっ 天人合一について

「山川は国の本なり」

木草しげき山は、土砂を川中に落とさず。

雨降れども木草に水を含みて、十日も二十日も自然に川に出る故に かたがたもって 洪水の憂いなし。

山に草木なければ、土砂川中に入りて川床高くなり候。

大雨を預ふべき草木無き故に、一度に川に落入。 しかも川床高ければ、洪水の憂いあり。

蕃山の行った事業の根本に流れている思想は「天人合一」である。

天地(大自然)と人間とは一体のものである。人間は、天地により生み出されている ものであるが、他の生物とは違って天地の造化、創造を助ける存在でもあるから、自己 の私智や私欲を離れて、その造化に協力しなくてはならない。

そういう天地との協和、天人合一 によって四季の巡りは順調で気候は寒暖よろしき を得、穀物は豊作で、人間の社会は 豊かで恵まれたものとなるというのである。

すなわち、自然と和合し協力すれば気候も温和で産物も豊かになるが、森林のむやみな伐採等の自然破壊をすれば、やがて人間に洪水等自然災害のわざわいが及び、不幸になると述べている。

自然環境破壊の深刻化に呼応して、近年注目されている環境思想の分野でも「我が国 最初のエコロジスト」として 高く評価をされている蕃山思想は、350年の昔に自然破 壊の愚として述べられているのである。

なんという先見性、長計遠慮であろうか。

地球温暖化等による自然の猛威にさらされている 令和の現代に生きる我々への大きな警鐘を、四百年前に生まれた蕃山が鳴らしていたのである。

## 当時の官学者と蕃山・藤樹の思想の相違点

江戸時代の博学識者として多くの学者があげられるが、世俗で、当時の学者の相撲で 言う番付表が作られていた。当時の相撲は横綱がおらず、大関が最高位であったが、蕃 山はその東の大関に挙げられており、先見性や合理性に満ちたその思想は、後継の学者 たちに多大の影響を与え、その存在が確固として認められていた。

江戸初期の官学者と清貧生活の民本学者の思想対立が面白い。

## 官学朱子学者 辩 羅山

家康をはじめ四代の将軍に朱子学を講じた幕府儒官、林羅山は「帝王が選ばれるのは 天命であり、人民はそれに従順たれ」と説いた。

また、朱子学は、 君臣・父子の別をわきまえ、上下の秩序を重んじた。それゆえ、 官学として幕府・諸藩から手厚い保護が加えられた。

幕藩体制が二百数十年保たれた根源的な要因かもしれない。

## 陽明学者中江藤樹・熊澤蕃山

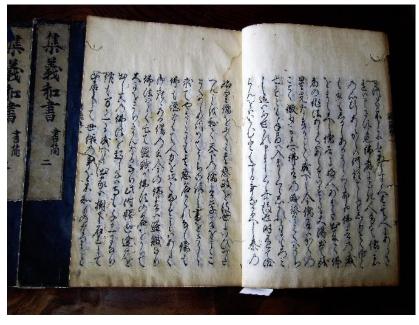
一方陽明学を主に信奉する藤樹・蕃山は、「帝王たるものは徳を積み、民に仁政を施 すべき者」と主張した。

また、現実の問題を思い切って批判し、その矛盾を 改めようとするなど 革新的な傾向が強かったために当時の幕府から警戒された。

やがてこの陽明学思想を基にした 蕃山の経世思想が 後の明治維新の原動力へと繋がっていくのである。



集義和書



## 代表的書籍

代表的な著書各書の概要を略記する。

# ま 義和書

寛文 12 年に初版発行された蕃山の代表的な随想録である。

政治・社会・学問思想などに関する意見を表明したもので、蕃山の思想を集約している。



友人の疑問に答える形での問答として当時としてはやさしい和文でつづられている。

文例 国の本は民なり。 民の元は食なり。 民食のこと くはしく知らでは、国郡を治る事あたわず。(中略)治国は事の大なるものにして、窮理の学これを知らざること能わず。

# しゅうぎがいしょ 集義外書

和書の続編で、現実の社会や政治の課題を主に扱ったもの。

| 文例 | 今の学者、 孟子に継て道を任すというもの有れども、 只其自ら高ぶる所の者は、文義を講談し、 格法をいふのみなり。 或いは 師とし学びたる者を毀ては己を是とし、或いは 他の学者の非を揚げる以って自ら賢也とす。 心に利欲逞しく、 当世の名を求めて、毀誉に動くことは、 市井の凡俗に違うことなし。

# だいがくわくもん大学或問

69歳(貞享4年)にして、幕府への意見書提出がもとで下総古河城内へ禁錮される。 意見書の内容が幕府批判に当たるとされた。その内容は11条にわたるが、革新の部分は、「参勤交代制について」「農兵制復活と米遣い経済の建言」「全国への学校創設・ 人材養成の提案」の3点であった。

蕃山の死後百年後の天明8年、「大学或問」として刊行されるが、翌年すぐ禁書処分にあう。幕藩体制の矛盾や問題点を鋭く衝いた内容で危険視されたのである。

これらの代表的書物が、後に討幕の原動力となった人々の愛読書だったと言われている。

この他「三輪物語」・「論語小解」・「中庸小解」・「孝経小解」・「易経小解」・「大学小解」他

\*\* 小解とあるのは、師である中江藤樹が「大学解」と称した故、蕃山は「大学小解」と師説尊重、 謙辞して「小」を付加したといわれている。

#### 蕃山の知行地と農兵制度

農兵制は、一般的には、士でありながら平時は農民と共に開墾や農業に勤しみ、有事には兵士としてともどもそれに当たるというもので、屯田兵とは武士のみが兵となり、農兵は武士と農民が共に兵として有事に当たるというものであったといわれている。

蕃山の岡山藩での事績の一つに農政策としての農兵制度がある。これは、蕃山の農民観は農民保護の色彩が強く、「民士一躰」の思想があったことによるものと思われる。 利点として次の4項目が考えられる。

- 1 武士の帰農により次第に従弱化しつつあった武士が強壮となること。
- 3 武家をはじめ社会全体として、奢侈(ぜいたく)の風が薄らぎ、節約が可能になること。
- 4 財用の権を商人の手から取り戻すことができること。

岡山藩より鉄砲組番頭としての蕃山に与えられた知行地は、寺口村(現;備前市蕃山)、 八塔寺村(現;備前市吉永町八塔寺)である。

#### 八塔寺の農兵制度

知行地の寺口村と八塔寺とは、いずれも播磨との国境にあり、国境守護という第一の目的があったわけであるが、蕃山は、八塔寺にまず農兵制を置いたのである。

岡山藩士湯浅常山が書いた武将たちの逸話集「常山記談二十五巻」の中に「和気郡八塔寺は、備前・美作・播磨が犬牙の如く入交たる地にて、そこに蕃山は田を開き、士数十人を土着させた」という趣旨のことが書かれている。農業振興と国境の守護の要であるこの地を土農一体のもとで農兵制度を確立させていったのである。

## 寺口村

同じく南東端で一山越せば播磨というこの地も、まさに国境の地である。赤穂池田家が取り潰され、浅野家が城を築いた状況下で、備前岡山藩の要衝であったこの地を蕃山が知行地として任されたのである。

またこの地は、蕃山が十数年藩政の中枢で藩改革の数々の事績を挙げた後、身を引いて隠棲した地でもあった。 藩士十数名を連れてこの地に隠棲した蕃山は、この地でも河川改修や田畑の開墾、村人への教育振興等に尽力し、四年間にわたり居住し、両親も呼び寄せ、終焉の地に考えていたような様子も見受けられる。

この後蕃山は、やがて藩政に返り咲く夢を見つつ、京都から吉野、鹿背山、そして松平公の庇護の元、明石、郡山、下総の古河へと後半生三十年にわたる流転の旅に出発したのである。各地での足跡とともに蕃山の思想は、後世に影響を与え続け、維新の功業にはその思想的影響が少なからず作用しているといってもおかしくないのである。

## 豊後岡藩(大分県竹田市)での蕃山の事績

熊澤蕃山が蕃山へ隠棲し、4年目の万治3年、42歳の時に池田光政の推挙により豊後岡藩 へ行政指導に出かけている。

当時の岡藩は様々な問題を抱えていて、光政が親戚筋に当たる岡藩主 三代目中川久清を憂慮しての蕃山派遣だった。

僅か 40 日ほどの滞在ではあったが、蕃山が岡藩で行ったのは、「経済講義」で、応急的な措置として、下士等の俸給および生活費の優遇措置と特別営業税、生産物の藩外移出、道路工事、食糧生産の割り当て、百姓への貸付金などが政令として出され、恒久的対策は、治山治水関係のもので、それが現在も残っている岡城周辺の山林への植樹や城原井路、緒方井路の開削等だった。

蕃山の技術指導は大変レベルが高く、水路は現在も健在で、多くの田畑を潤し続けている。

#### 城 原 井 路 【 総延長 130km 分水口 1,300 か所 総受益面積 350ha 】

蕃山の工法を使い最初に完成した井路である。 望首工のとり方、勾配の付け方、流路のとり 方は その後の藩内の水路作りの手本となって いる。



城原井路の頭首工

緒 方 井 路 【 総延長 17km 総受益面積 232ha 】

平均で千分の一という緩やかな勾配の水路で、微妙に途中の勾配を変えたり、泥抜きを付けたりと、末端まで水を行き届かせるために非常に高い技術が用いられており、 是 も蕃山の指導の賜物と地元では語り伝えられている。

この水路の完成により、米などの大幅収穫が可能になり、石高が7万石の所領だったものが 一気に3万石の増加があったことが届けられている。

両井路とも現在も立派に機能しており、疏水百選にも入っていて、地域の水田農業を 支える重要な役目を果たしている。

岡藩主中川久清は蕃山に深く感謝し、中川家伝来家宝の名笛「木枯らし」を贈っている。 蕃山は知る人ぞ知る、和楽器の天才的な奏者でもあることを久清は知っていたのである。 また後日、豊後岡城三の丸の頌徳碑(巻末の写真参照)にその蕃山の偉業が刻銘されている。 豊後岡城は滝簾太郎「荒城の月」のモデルとしても有名である。

現在でも熊沢蕃山の顕彰活動は行われていて、没後三百年祭が平成3年に実施された。

## 蕃山の故郷は備前岡山蕃山の地



蕃山屋敷跡 (備前市蕃山)

岡山藩の藩政の中心からいったん身を 引いた蕃山が身を寄せたのが、知行地で あった現備前市蕃山だった。

彼は山深く閑静で、峠を越えれば海と いうこの地をもともと好んでいた。

かなわなかったが、彼の心中にはこの 地を終焉の地にという思いは強くあった ように窺える。

それは、一つには、岡山藩政の中心で、

池田光政の知遇により思う存分その手腕を発揮し天下の名士となったこと。

もう一つは、両親を始め兄弟や縁者の墓が設けられていることで想像できる。

また、京都を始めとして各地を転住する身になったが、彼は何かにつけて度々この 蓄山へ帰り、半年から一年という長期滞在をしているのである。

藩政へ返り咲くことができなかった<br/>

藩山が、終焉の地古河で惜念の思いを抱いて<br/>
故郷 岡山・蕃山を思慕し詠んだのであろう和歌がある。

老いの身の 見んこと難き故郷に 春まちえてや 帰る雁がね ゆかり かり せき けんくともおほやけの いましめあれば えも伝えじ

蕃山はこの時期、文通も禁じられていて、故郷へ帰るなど夢にもかなわないことだった。 春を待って故郷へ帰る雁の群れを見て、関所がない雁を羨んだ歌である。

歳老いた蕃山の孤高の姿が浮かび 故郷 岡山蕃山に想いを寄せ 今尚 鋭い眼光の中にキラッと 光る一筋が見えた気がするのは 私だけだろうか…

## 蕃山の呼名由来

二度目の岡山藩出仕後、藩政でその手腕を振るった熊澤蕃山であるが、十数年後、知行地であった和気郡伊里の荘、寺口村へ隠棲している。この寺口村で4年の歳月を過ごした蕃山は、自分の名前やこの地名まで変え、村の名前は寺口村から蕃山村になり、姓名も、熊澤助右衛門から蕃山了介と改名している。

以後、蕃山はこの地を愛し、両親・兄弟・縁者の墓を作り、自分の故郷としていたように窺える。

「しげやま」の由来については、新古今和歌集にある「源堂之」の詠んだ歌からだと言われている。

#### つくば山 は山しげ山しげれど 思い入るには さはらざりけり

気波山は 草木が繁茂していて 踏み入ることが難しいが、 恋に踏み入るのは、 少々のことは 何の障害にもならない。

しかし、本来なら「しげやま」は、 茂山 か 繁山 のはずであるが、 蕃山は「蕃」の文字にこだわっている。これは、蕃に『未開』という意味があり、現在と違う当時の寺口村の地理的要因と、 蕃山の主張を理解できない岡山藩の環境を総称して蕃を用い、それらを開墾 (開拓) していこうという意思の表れではないかと言われている。

以後、現代まで 警節という通称がまかり通り、姓名だけでなく、地名も 現 備前市の審節、岡山市北区内の屋敷跡近辺は 現在 審節 となっている。

# もう一つの蕃山呼称説

また 審節には、もう一つ呼称の由来があり、藩主 光酸の親しかった松島 瑞巌寺 (仙台市) の雲居禅師の草庵が、松島の 審節\* にあることから、光政の側後であった 蕃山は 当然禅師と親しく、これを参考にしたという説も唱えられている。

※ **蕃山**(ばんざん/標高 356m)は、仙台市街地の西部に位置し「蕃山」「西風蕃山」「蛇台蕃山」の三つの峰からなる 里山で、松島瑞厳寺の雲居禅師がこよなく愛した山と言われている。

#### 蕃山と藤樹の出会いのきっかけになった逸話

蕃山が師を求めて旅をしていた時、ある宿で同宿の者からこの話を聞き、この人(藤樹)こ そ捜し求めていた我が師だと直感したという逸話である。

#### うまかたまた ざ えもん 「馬方又左衛門 (正直馬子) |

河原市(現在の滋賀県新旭町安井川)に又左衛門と いう馬子がいました。

ある日、又左衛門が河原市から榎宿まで、加賀の飛 脚を馬に乗せていきました。仕事を済ませて家に帰り、 鞍を降ろすと、財布が一つ。 見ると 中に 200 両もの 大金が! 又左衛門は驚き、さっきの飛脚のものに違



馬方又左衛門宅跡に建立された石碑

いないと思い、すぐに疲れた足で飛脚の泊まっている30㎞も離れた榎の宿(現在の滋賀 県志賀町和邇)まで引き返しました。

荒い息をしながら飛脚に会うと、やはりその財布は飛脚が忘れたものであり、すぐに財 布を返すと、財布のないことに気づき死ぬほど心配していた飛脚は、涙を流してこれを喜 び「もしこの 200 両が無くなったら、私の命はもちろん、親兄弟まで重い罪になるとこ ろでした。このご恩は決して忘れません。本当にありがとうございました。」と言って、 自分のお金 15 両を出して、お礼として渡そうとしましたが、又左衛門はびっくりして 「あなたの大切なお金をあなたが受け取るのに何で礼が要りましょう。」と言って受け取 りません。飛脚がお礼の額を下げても、まだ受け取ってもらえません。

「せめていくらかでもお礼をさせてください。そうしないと私の気がすみません。」と 言う飛脚の困り果てた姿を見て、又左衛門は「それほどまでおっしゃるのなら、ここまで 来た駄賃として 200 文だけいただきましょう。」と言って銭を受け取り、それで酒と肴 を買って宿の人たちと酒を酌み交わして、ほろ酔い機嫌で良い気持ちになり馬子が帰ろう とすると、これに心を打たれた飛脚は、「あなたは私の命の恩人。どこのどなたか、せめ て名前なりとお聞かせください。」と訊ねると、又左衛門は、「名乗るほどのものではご ざいません。ただ、私の村の近くに、中江藤樹先生と言われる方がおられて、毎晩、村の 者たちに、ためになるお話を聞かせてくださいます。私も時々行って、お話を聞くのを楽 しみにしています。「親には孝行し、 自分の仕事を大事にし、 嘘をついたり、 人の物を 盗ってはならぬ」とお話になります。 それで、今日も自分のお金ではないので届けに来た のです。」と言ってニッコリ笑顔を残し帰っていきました。



山田方谷像 高梁方谷会所蔵

山田方谷 (1805~1877) 備中松山藩士で江戸時代末期から明治時代初期 の漢学者。

#### 備中松山藩主 板倉勝静に仕え藩政改革を断行

学者として藩に仕えていた方谷を、藩主 板倉勝静は藩の元締役兼吟味役 (財務大臣) に抜擢し、藩政改革を任せた。方谷は藩政改革を断行し、慢性 的な赤字で10万両の借財を抱えていた藩財政をわずか8年足らずで借財を 完済しさらに10万両を蓄財するという成果に導いた。これが幕府に認めら

れ、藩主勝静が幕府の老中となると、方谷もこれを支えて幕末動乱の政治に関わることとなった。

#### 江戸幕府崩壊

藩主勝静は幕閣の中心となるが、江戸幕府の崩壊により備中松山藩は朝敵となった。この時、内政の責任者として藩を守っていた方谷の努力により無血開城に導かれ、城下はあわやというところで戦火から救われた。 明治の新政府は、方谷を政府の要人として招聘したが、これを固辞し藩内の子弟教育に専念した。

明治維新以降は、**備前の閑谷精舎(閑谷学校)の再興に尽力する**など多くの子弟を教え、その思想、 手法、人材は、次世代の大きな財産として残された。

#### 旧閑谷学校の再興へ

明治 5 年 (1872) 岡本 競 や谷川達海らは方谷を訪ね、岡山に新しい学校を興したいとの旨伝え、指導・協力を請うが、方谷は、新規学校を起こすよりも廃校になっていた旧閑谷学校の再興を提案し、協力することを約束する。それを受け岡本らは同志と供に、池田慶政公よりの多額の寄付等をもとに、旧閑谷学校再興を目指した。

#### 閑谷精舎の誕生

明治6年、旧閑谷学校は「閑谷精舎」と名付けられ岡本らの努力により再興を果たした。 同年2月、方谷は、69歳の高齢をおして初めて再興なった旧閑谷学校へ来校し、陽明学の 講義を行う。地元に小坂部塾等を抱えていたため、閑谷定住はできず、来校は春と秋とにそれ ぞれ一、二箇月ほど滞在することになる。閑谷精舎も開校当時、生徒は二十人程度であったが、 翌年5月の来校の際には百人にまで増えたといわれている。

## 山田方谷と熊澤蕃山 江戸初期の偉人を末期の偉人が敬慕

明治7年10月、来校した方谷に岡本らは、現備前市蕃山の熊沢蕃山宅跡の傍に草庵を築いて方谷の遊息の場とした。 方谷はこれを大変気に入り愛した。

翌8年2月、旧松山藩の儒者鎌田玄渓とここで過ごした時には、敬慕してやまない蕃山先生の宅趾をすぐ傍に眺め、その魂に触れる喜びに感じ入ったといわれている。

明治9年7月にも病気をおして来校するが、この後急激に病気が悪化して再度訪れることはなかった。これに合わせるかのように、生徒も次第に散去し、ついに明治10年4月には休校するに至った。この年6月、山田方谷は、病により没する。享年73歳であった。

来校時、蕃山から鏡石を通り閑谷への山道「儒の道」を方谷はどんな思いで通ったのだろうか

旧閑谷学校創設に情熱を注いだ岡山藩主池田光政を儒学開眼に導き支えた熊澤蕃山。藩政改革で廃校となっていた旧閑谷学校の再興に協力し次世代を担う人材を残した山田方谷。

江戸初期と末期から明治初期と生きた時代は違うが、旧閑谷学校と蕃山の地を通してこの二人の偉人が結びつく大きな縁がこの備前の伊里地区にはあったのである。

#### 熊澤蕃山の遺訓

□ 憂きことのなおこの上に積もれかし 限りある身の力ためさん

【 困難・苦難な事よ、この身にいくらでもやってこい、自分は決してそれに負けたりしないから 】 哲学者 西田幾太郎氏や青色発光ダイオード(LED)の開発でノーベル物理学賞受賞の 天野 浩 氏をはじめ、 多くの著名人が「座右の銘」としています。

□ 世の中に何も後を残さず、名も残さずに終わりたい

【 何をやったかではなく、人としてどうだったかが大事 】

□ 我は我、人は人にてよく候

【 他人と比べたり、 他人をうらやんでも意味がない。 自分らしさを磨け 】

□ 人は答むとも咎めじ、人は怒るとも怒らじ

【 怒りと欲を棄ててこそ、 常に心は楽しめり 】

□ 上おごり、下苦しむときは乱れ亡ぶ、損これより大は無し

【 上質素に、下豊かなるときは 国治まり天下平らなり 】 (集義和書巻七)

口 天 人 合一

【 天と人は 同じく自然の産物、 三百年前に自然破壊は駄目と言い切っている 】

**時・処・位** (時代・国土・地位)

【 状況に即して事を行うべし 】

#### 蕃山逸話 1

養父 熊澤守久の友人 板倉重昌 (幕府譜代大名で島原の乱で戦死) は蕃山 9 歳の時、「御身は将来、天に昇る竜になりたいか? それとも、地上の猛者たる虎になりたいか?」と聞いたところ、蕃山は答えて曰く、「どちらも望みませぬ。わたしは竜虎よりも、むしろ牛馬となって人の世のために役立ちとうございます。」

#### 蕃山逸話 2

蕃山が蕃山村を出る時に、岡山藩の藩政上層部に対して失意を抱いて行ったデモンストレーションが語り継がれている。 昼間に提灯に火をつけて歩き、「岡山は闇だ!」と言ったそうだが、これは後の崇拝者の作り話ともいわれている。



「蕃山先生勉学処」の碑 かつては碑の周辺は竹が生い茂り「備前藪」と呼ばれていたそうですが、現在は住宅地となっています。

#### 【熊澤蕃山物語2】【熊澤蕃山四方山話10】

蕃山は、岡山を離れ父方の祖母の里を頼りに近江桐原村(現在の近江八幡市)へ移住し、家族と暮らしながら勉学に励みます。

しかし、独学ゆえ基礎がないため、学問の師を求め探すうち、正直 馬子の話から中江藤樹のことを知り、やっとのことで弟子入りします。

藤樹と共に学べたのは、僅か8カ月程でした。 家族を支えるため 桐原村に戻り、貧しい中でも自らを磨くことを忘れませんでした。

その後池田家への帰参が許され、池田光政に重用されて藩政に 尽力し、後に世に知られる経世家として活躍することとなります。

蕃山が桐原村で過ごしたのは7年間でした。

当時下宿していた屋敷跡に、蕃山の顕彰と青少年の向学の志を 養う目的から、大正時代末期に桐原村青年団の事業として「蕃山 先生勉学処」と記した記念碑が建立されています。

#### 【熊澤蕃山四方山話7】

大分県竹田市にある国指定史跡 岡城跡の三の丸に建つ「蕃山先生頌徳碑」

3代目藩主の中川久清が岡藩中興の英主といわれる要因の一つに、蕃山を招いたことも幸いしているといわれています。

蕃山が竹田に滞在したのは約40日といわれるほど 短いですが、今でもその間の功績をたたえた顕彰活 動がなされています。

(石碑の大きさが蕃山の功績の偉大さを物語っています)







【東京大学駒場図書館蔵】

#### 学者角力勝負附評判 【熊澤蕃山四方山話 1】

天明 8 年(1788)刊の学者角力勝負附評判には、元禄年間から天明 8 年までに活躍した学者の評判を相撲番付に見立てたもので、それによると、最高位である東の大関に熊沢蕃山、西は新井白石、関脇に荻生徂徠、伊藤仁斎、小結に細井光沢、服部南郭が座っています。

蕃山病没(1691)から 97 年後に出された評判記の類ですが、約百年後の人々からも高く評価されており、その80 年後、明治維新の志士たちにも崇敬されていました。



孝子蕃山継武奉司

熊澤蕃山の神主(儒式の位牌)



熊澤蕃山と中江藤樹の神主が祀られている 鏡石神社の神主堂

蕃山の養子となった池田光政の三男・政倫(後の輝録)の末裔が東京で保管していたのを郷土史家が 突き止め「ゆかりの地で未永く祀ってほしい」との申し出により、平成2年8月に280年ぶりに岡山に帰り、 師である中江藤樹の神主を祀る鏡石神社の神主堂に合祀されました。

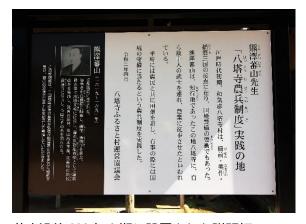
牌身の「息游軒」は蕃山の別号。 切り合わせた牌身内面には 山城国京都稲荷の生まれで下総国古河で元禄4年8月17日に没したことなどが墨書きされています。

令和2年2月、蕃山没後330年にあたり藤樹の神主とともに初公開されました。

(備前市八木山;鏡石神社)

#### 農兵制度実践の地 八塔寺 【熊澤蕃山四方山話6】

江戸時代初期、和気郡八塔寺村は、備前・美作・播磨の三国の接点に在り、国境警備の要衝でもありました。 蕃山は、知行地であったこの地八塔寺に自ら十数人の武士を連れ、農業に従事させたといわれています。 平時には農民と共に田畑を耕し、有事の際には国境の守備に当たるという農兵制度を実践しました。



蕃山没後330年を期し設置された説明板 蕃山に感銘した地元出身者の篤志により寄贈されました。



主要参考文献 : 宮崎道生 著 新人物往来社 「熊沢蕃山ー人物・事績・思想」

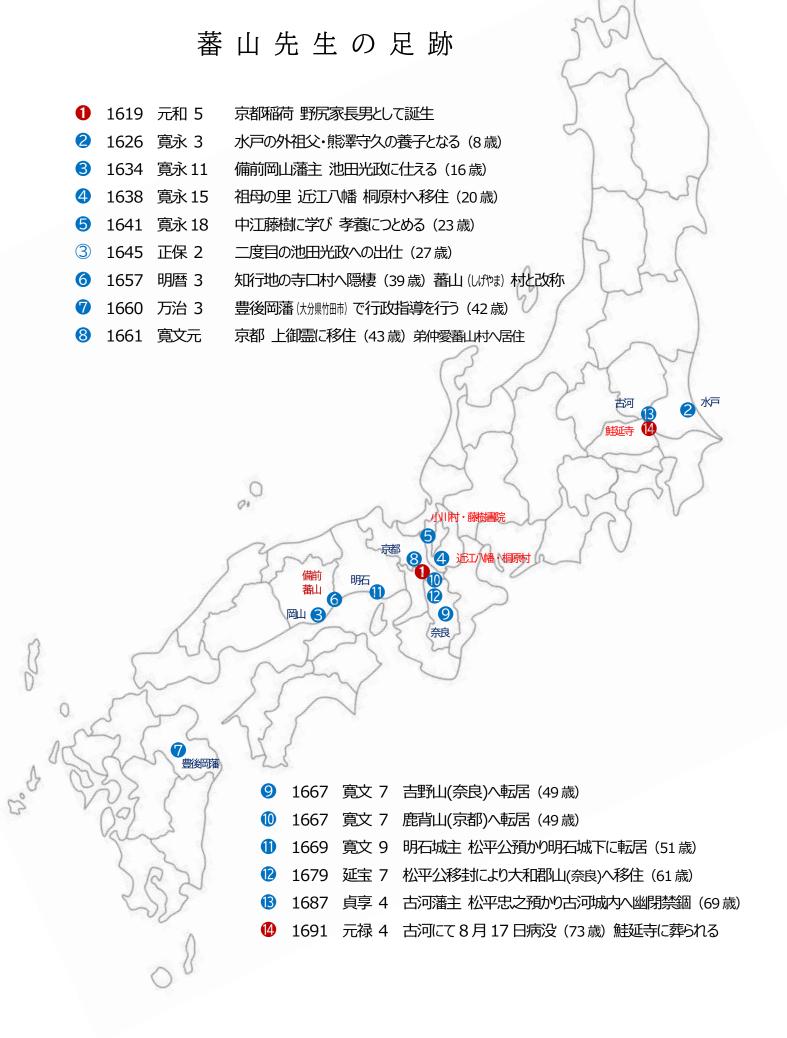
## 熊澤蕃山関係略年表

元号	西暦	年齢	主 な 出 来 事
慶長 5	1600		関ケ原の戦い。
8	1603		徳川家康征夷大将軍となり、江戸幕府が成立。
13	1608		中江藤樹 近江小川村に生まれる。
14	1609		<b>池田光政</b> 岡山城にて生まれる。
元和元	1615		大坂夏の陣で豊臣氏滅びる。
5	1619		<b>熊睪蕃山</b> 京都稲荷にて生まれる。(幼名左七郎) 父は野尻一利 母は熊澤守久の娘亀。
9	1623	4	次弟仲愛生まれる。
寛永 3	1626	8	水戸の外祖父・熊睪ウ久の養子となる。
9	1632		池田光政(24)鳥取から備前岡山へ移封。 二代将軍秀忠没。
11	1634	16	備前岡山藩池田光政に一回目の出仕。
14	1637		島原の乱勃発
15	1638	20	島原の乱に従軍を許されず、無断で出兵を企て任を解かれる。近江桐原村へ移住。
18	1641	23	近江小川村の儒者中江藤樹(34)に入門。 8カ月間儒学、孝経・大学・中庸等を学ぶ。
			池田光政、花畠教場(藩校の前身)を創設。
19	1642	24	父一利、士官を志し出府 蕃山一家扶養のため桐原へ帰村。
正保 元	1644	26	弟仲愛、藤樹に入門(この年藤樹陽明学に転向)。
2	1645	27	再び岡山藩へ出仕。次郎八と改称。
4	1647	29	側役となる 知行 300 石。 中江藤樹、光政の招聘を辞退。 翌年 <b>藤樹死去</b> (41)。
慶安 2	1649	31	光政の参勤に従い出府。 諸大名・旗本等の従学者は数十人に及ぶ。
3	1650	32	助右衛門と改称。鉄砲組番頭になる。 知行3千石に加増される。
4	1651	33	岡山藩家老池田出羽が蕃山批判するが、光政が蕃山を弁護。
			「花園会約」九ヶ条を起草。
承応 元	1652	34	幕閣内で蕃山の心学(陽明学)信奉批判強まる。
3	1654	36	岡山で承応の大洪水・凶作大飢饉の発生。 河川復日、棄民救済、幕府から4万両借財。
明暦 元	1655	37	光政、蕃山に家老らとの和合を訓諭。
2	1656	38	狩猟の間に負傷、致仕を申請。 光政の三男・政倫(後の輝録)を養子とする。
3	1657	39	知行地寺口村(現備前市蕃山)へ隠棲、蕃山(しげやま)村と改称。
万治 元	1658	40	岡山藩朱子学者を招聘。これより儒学は朱子学に変更。
3	1660	42	蕃山了介(しげやまりょうかい)と称する。 豊後(大分県)へ行政指導のため下向。
寛文 元	1661	43	京都上御霊へ移住。弟仲愛、春に蕃山村へ居住。
6	1666	48	岡山城内に石山仮学館設立。寺院整理政策。
			蕃山実弟仲愛(八右衛門)が光政の近習となり評定に列座。学校奉行に就任。

元号	西暦	年齢	主な出来事
			この頃、京にて公卿や武士など蕃山に従学するもの多数。
7	1667	49	京都所司代から京都追放命令。吉野山、鹿背山に転居。和意谷墓所完成。
8	1668	50	岡山藩領内 123 か所に郡中手習い所を設置。 妹万没。
9	1669	51	明石城主松平信之公預かりとなり、明石城下に転居。
			岡山藩学校開校。開校式に蕃山出席し釈奠礼(儀式)を司宰。
			百間川荒手築造 (完成は 1686 年)。
10	1670	52	旧閑谷学校築造始まる。藩校の始業式に出席「孝経」誦読の音頭とる。母親亀没。
11	1671	53	8月、蕃山村へ帰省、翌春まで滞在。
12	1672	54	池田光政隠居、蕃山と光政阻隔この頃からか。 9月「集義和書」完成。
延宝 元	1673	55	旧閑谷学校講堂完成。父の病のために蕃山村へ帰省。
			郡中手習所全廃。
7	1679	61	「集義外書」完成。 松平信之の移封により郡山へ移住。
天和 2	1682	64	<b>池田光政死去</b> (74)
3	1683	65	老中堀田正俊の招聘により出府。 出仕要請を固辞する。
貞享 2	1685	67	藩主池田綱政と養子政倫へ書伏、藩政の諫言。
3	1686	68	「大学或問」初稿を示し、幕府こ上呈。
4	1687	69	古河(現茨木県古河市)藩主松平忠之預かりとなる古河城内へ幽閉禁錮。
元禄 元	1688	70	妻いち55歳にて没。鮭延寺墓地に埋葬。
4	1691	73	蕃山 古河にて病没。(元禄4年8月17日) 松平忠之、儒礼を以って鮭延寺に葬る。
	1868		明治維新
明治 43	1910		正四位を追贈される。(贈位諸賢伝) 江戸時代の学問を興隆させた功績によるもの

## 熊澤蕃山先生の主な顕彰活動

元号	西暦	顕彰事業・顕彰活動など						
DTT 0 4 =	40.40	++   +						
昭和15	1940	蕃山先生 250 年祭御遠忌・御両親及御一門供養法会が挙行される(県聖学会主催)						
57	1982	熊澤蕃山と山田方谷宅跡の環境整備事業により塀、石門を復日(備前市)						
平成 2	1990	蕃山先生300年祭儒式祭典・御遠忌供養法要会が挙行される(県・市・地元実行委員会)						
3	1991	記念事業として記念誌発刊、小公園を整備し備前焼ノリーフ設置(県・市) 熊澤蕃山顕彰保存会設立 (10月)						
6	1994	「蕃山先生を偲ぶ会」を熊澤蕃山湿寛/保存会により開催 (ごれ以降毎年8月に開催)						
27	2015	近世日本の教育遺産群の構成文化則として旧閑谷学校ともに熊澤蕃山宅跡が日本遺産に認定されたのを契機に						
		顕彰活動をさらに促進						
30	2018	「熊澤蕃山記念館」の建設を市に要望(伊里地区区長会)						
令和 元	2019	伊里地区で熊沢蕃山記念館建設推進委員会を発足させる(熊澤蕃山顕紀存会へ活動を継承)						
2	2020	市において「熊沢蕃山顕彰推進会議」が設立される						
		蕃山先生没後330年記念展を開催(熊澤蕃山與韓/保存会) 旧閑谷学校創学350年						





熊澤蕃山先生没後 330 年記念 令和 2 年 9 月 熊澤蕃山顕彰保存会 謹製

〒705-0034 備前市友延 409 **☎** (0869) 67-0001 熊澤蕃山顕彰保存会事務局